

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 山下 浩

作成日 2021年3月17日

【責任】

基礎薬学部門 医薬化学分野に所属し、専門科目である生薬学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、化学系関連科目（生薬学 I, II、薬草園実習、薬学基礎実習、薬学総合演習など）の担当、ゼミ生の卒業研究指導、卒業研究委員会、薬剤師国家試験委員会、クラス担任、薬用植物園園長、薬草研究部の顧問である。

【理念】 薬剤師は、薬物療法のエキスパートとして医療に関わるが、自然科学に造詣が深い「街の科学者」としての資質を併せ持つ事で、患者が日常生活で気軽にアクセス出来る医療従事者となり得ている。実際、医薬品の効能・効果だけではなく、副作用、化学的性質や化学構造など、複眼的視点から薬物の理解を深めたうえで、臨床現場での情報提供に繋げる必要がある。また、主担当科目の生薬学においては、天然産物の性質を色濃く有した物質（医薬品）である「生薬」を取り扱うため、上記事項に加えて植物の基原に関する知識、栽培・供給に関する実態や品質評価に関係する事項についても理解が求められる。これら全ての情報を有機的に関連させ、医療に活用できる薬剤師を育てたい。

また、現代社会では様々な情報が溢れかえっており、患者のみならず医療従事者もフェイクニュースや科学的エビデンスの弱い記事に踊らされることが少なくない。学生には、得られた情報を咀嚼し、正確な知識、論理的思考と経験をもって、筋道の通った偏りの無い情報を提供できるようになってもらいたい。

【方針・方法】

上記の理念を実行するために、講義・実習・卒業研究において「頭だけではなく、五感を使い考える」「学修した知識、経験と技術が、直接に患者へ還元される」「全ての科目の間に関連性がある」「興味を抱いて能動的に取り組む力」「多様な意見を受け入れ、論理的に判断する力」を養うという方針で教育を行っている。

「頭だけではなく、五感を使い考える」

- ・文字・映像情報の記憶だけではなく、嗅覚、触覚などの感覚を駆使して理解する工夫をおこなう。
- ・スライドには写真を多く盛り込み、対象の生薬や植物をイメージし易くする。
- ・教科書、スライドの写真だけではなく、講義中には実際の生薬標本を数多く回覧し、質感や匂いなどを感じる事で、教科書に書いてある情報や日本薬局方（厚労省の医薬品規格集）の規格要件の理解に繋げる。

「学修した知識、経験と技術が、直接に患者へ還元される」

- ・講義内で取り上げられる項目・内容が臨床現場で、そのまま役立っている事例を多くとりあげ、低学年時から医療現場および患者に対する意識を持って貰う。
- ・講義日に近い日時に発表されたニュースやトピックスを積極的に資料化し配付している。これにより、講義内で学修していることが社会的・医療的にもニュースとなるような重要な事であると認識してもらおう。

「全ての科目の間に関連性がある」

- ・講義内で説明する多くの内容について、学生が既に修得している科目の内容を絡めて繰り返し説明を行う。また、高学年次で履修する他科目の内容なども、現在学修している項目との関連性を盛り込んで、予習を意図しアドバンス的に提示する。
- ・文章や単語の字面だけでは、他科目の内容と関連が判りにくいものをピックアップして、スライドに記載することで気づきを促す。

「多様な意見を受け入れ、論理的に判断する力」

- ・他者が持つ様々な考え、知識を柔軟に受け入れた上、理論的に情報を集積・再構築することで、状況に即した整合性のある判断を行う。
- ・発信、流布されている情報の信憑性や論理性などを科学的に鑑みた上での考察から、状況の客観的な判断がおこなえるようにする。具体的には、商品広告やニュースやネット上に流れている情報を題材として、信頼に値する内容であるか、グループワークを行う。その本質として、医療従事者が根拠の無い情報やフェイクニュースを拡散することは、医療の現場にとって大きなダメージを与える事を理解してもらう。
- ・講義時間以外にも積極的に学生とコミュニケーションを取り、彼らも持っている考えをざっくばらんに吸収する。また、それをもとに講義へのフィードバックを行う。

【成果・評価】

- ・講義アンケートでは、多くの学生が「そう思う」「非常にそう思う」の回答をしており、講義の満足度は概ね高い結果となっている。
- ・講義開講日やオフィスアワーに関わらず、質問に尋ねてくる学生の頻度が高い。
- ・漢方薬に興味を持ち、自分で深く学習したという学生が増えた。服用して症状が軽快した報告も受けている。
- ・Good Lecturer 賞を3年連続受賞した。（現在、制度は中止）

【目標】

短期目標

- ・講義アンケートに「学生対応の適切性」「講義内容で興味を抱いた項目」などの設問を設定し、次回のフィードバックに役立てる。
- ・問題演習として、moodle上で写真や図表、構造式などを用いた数問単位の振り返り演習を行う。
- ・各論部分の知識蓄積だけに留めさせず、社会情勢、医療情勢からの問題発掘・問題提起を意識してもらうため、時事医療ニュースの資料作成・提供回数を増やす。

長期目標

- ・該当教科の単位修得後にも興味を持って自己学修を継続して貰えるように、上級学年も含め対象とした課外でのフィールドワーク（薬草園など）を企画する。